



**丸谷知己 砂防学会長に  
砂防学会について聞きました。**

### Q 1. 砂防って聞きなれない言葉ですが、教えてください。

A 1. 我国では、雨や地震などに伴い土石流、がけ崩れ、地すべりが発生し多くの尊い人命や財産（家屋、田畑、公共施設など生活や社会的活動に必要なもの）が奪われています。このように土砂により引き起こされる災害のことを「土砂災害」と言いますが、土砂災害を防止・軽減するための対策が「砂防」です。



2017年7月5日～7日の線上降水帯の停滞に伴う豪雨により、福岡県朝倉市・東峰村、大分県日田市等で土砂（流木含む）災害が多発し、多くの尊い人命が奪われました。



2016年4月14日・16日に熊本地方で震度7の地震が発生し南阿蘇村等で崩壊・地すべり・土石流による多様な土砂災害が多発。さらに6月～7月の豪雨に伴い崩壊地の拡大・新規崩壊等発生し、多くの尊い人命が奪われました。

### Q 3. 砂防学会って何ですか？

A 3. 砂防に関する学問の進歩、土砂災害対策の発展、砂防技術者の資質の向上を図り、土砂災害より国民の人命・財産や国土を守り、社会の発展に寄与するため、1,951（昭和26）年に発足しました。会員は、大学、行政、民間企業などに従事する者より成り1,800名を超えています。国民に開かれた砂防学会を目指しています。

### Q 4. どんな活動を行っていますか？

A 4. 土砂災害から人命・財産を守るため、“土砂災害がなぜ発生するのか”、“それを防止するためにはどんな対策が必要か”などについて調査・研究し、その成果は実際の対策に生かされています。安全で豊かな国土づくりに貢献できるよう、様々な活動を行っています。

### Q 2. どんな対策を行っていますか？

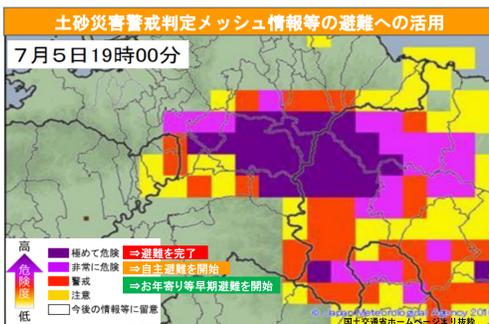
A 2. 砂防には、砂防えん堤の建設など構造物によるハード対策と危ない場合の早めの避難など構造物によらないソフト対策があり、組み合わせて進めていくことが重要です。砂防（SABO）は、国際用語にもなっている程、我国の砂防技術は世界のトップ水準にあり、国際的交流も積極的に行っています。



2017年の九州北部豪雨災害の際、朝倉市須川に整備された砂防えん堤が大量の流木の流出を防止し、土砂災害の発生を防ぎました。



南九州に広く分布しているシラスは水に弱く、がけ崩れ災害が多発しています。これを防止するため、人家の裏山を緑で覆ってしまう対策やがけ崩れを待ち受ける対策が行われています。



土砂災害の危険性が高まると、気象台と都道府県は共同で土砂災害警戒情報を提供します。この情報などを踏まえて市町村から避難勧告が発表され、土砂災害が発生する前に避難が完了し多くの人命が救われた事例が多数報告されています。



砂防えん堤などの整備により、上流の溪床が上昇して溪流沿いの斜面の足元が安定します。このため、斜面の土砂移動が少なくなり植物の種子が自然に入って発芽することが出来るようになり、自然環境が回復します。



年に1度、場所を変えて研究成果の発表会を開催し、意見交換を行っています。発表論文数は、400件を超えています。合わせて、会員の参加のもと総会を開催し、予算や活動計画等を決定します。



社会的影響の大きな土砂災害が発生すると、その地域の関係者などからなる調査団を派遣し、災害の状況、原因、必要な対策、今後の課題など調査し、その成果を発表しています。必要に応じて、行政へ提言します。



年に1度、場所を変えテーマを設定して、講演、討論会および現地見学会などを行っています。



砂防に関する海外との学術研究発表会にも参加し、国際的交流も行っています。



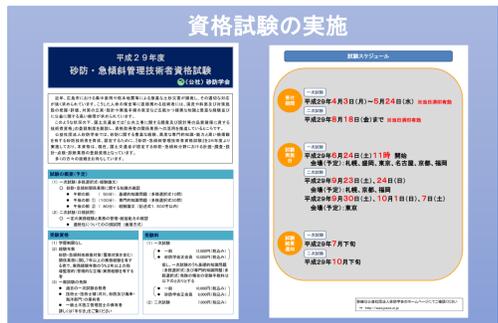
年に6回、論文、学会活動予定や技術の周知などを掲載した学会誌を発刊し、会員などに提供しています。



ホームページには、学会活動内容や新砂防を公開して、広く情報を提供しています。



大学生を対象に、行政（国、都道府県など）や民間企業に就職した場合、砂防に関してどのような仕事に携わるのか説明し砂防に従事する人材を確保しています。



砂防やがけ崩れ対策施設の機能を保持するため、砂防・急傾斜管理技術者資格試験を行い、資格者の登録を行っています。



砂防学会の女性会員は130人を超えています。2017年論文賞では初めて女性会員が選ばれ会長より表彰されました。



若手研究助成などによる若手砂防研究者の育成を進め、学会の持続的な発展にも努めています。

